

ナシ「恵水」における樹体ジョイント仕立てで早期多収を図れます

農業総合センター園芸研究所

【研究の概要】

ナシの樹体ジョイント仕立ては、複数樹を接ぎ木により連結し直線状の集合樹に仕立てる栽培方法で、早期成園化と作業簡易化に有効です。

本県育成のナシ「恵水」では早期成園化技術のニーズが高まっていることから、「恵水」における樹体ジョイント仕立てに対する適応性を検証しました。その結果、ジョイント実施3年目に収量約6t/10aを得られ、その後も安定して多収が期待できることが明らかとなりました。



「恵水」樹体ジョイント仕立ての定植7年目の結実状況

【研究内容】

「恵水」の樹体ジョイント仕立てと慣行仕立て（3，4本主枝）について、仕立て方法の違いが「恵水」若木の生育に及ぼす影響を検討しました。

【研究成果】

「恵水」樹体ジョイント仕立ては、定植6年目（ジョイント実施3年目）に成園並みの10a換算収量約6tを得ることができます。また、慣行仕立てと比べて糖度は同等であり、果実をならせる側枝を更新するための新梢の発生も十分認められることから、果実品質や栽培性も問題なく、その後も安定して多収が期待できます。

既存の「豊水」園地をジョイント仕立てにより「恵水」へ改植したと想定すると、改植6年目に改植を行わない場合の累積所得を上回ることから、ナシ経営による所得向上に十分に寄与できることが明らかとなりました。



「恵水」ジョイント仕立てによる改植時において想定される累積所得

【将来の展望】

今回の試験では、苗木をほ場に直接定植して2年間育苗した上でジョイントを実施しましたが、ポットで育苗した2年生大苗などをジョイント可能な間隔で定植し、すみやかにジョイントすることにより、より早期に成園化が可能です。また、作業の軽労化が図れることから、生産面積の拡大も期待できます。